



京セラ株式会社

2024年3月期 通期 決算説明会

2024年4月26日

イベント概要

[企業名] 京セラ株式会社

[企業 ID] 6971

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2024 年 3 月期 通期 決算説明会

[決算期] 2024 年度 通期

[日程] 2024 年 4 月 26 日

[時間] 16:15 – 16:34
(合計：19 分、登壇：11 分、質疑応答：8 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 2 名
代表取締役社長 谷本 秀夫 (以下、谷本)
執行役員 経営管理本部長 千田 浩章 (以下、千田)

登壇

司会：皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、京セラ株式会社のウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、2024年3月期通期決算説明会を開催いたします。本日使用いたします資料は、当社ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

なお、本日のウェビナーは録画しております。予めご了承ください。

それでは、最初に本日の出席者を紹介いたします。代表取締役社長、谷本 秀夫でございます。

谷本：谷本です。よろしくお願いいたします。

司会：執行役員 経営管理本部長、千田 浩章でございます。

千田：千田です。よろしくお願いいたします。

司会：それでは、これより説明を開始します。谷本社長、お願いいたします。

谷本：平素は皆様大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、2024年3月期決算説明会資料に沿ってご説明いたします。

1 2024年3月期 実績

2 2025年3月期 業績予想

資料の1ページをご覧ください。本日はこちらに記載のとおり、2024年3月期実績および2025年3月期業績予想の順にご説明いたします。

はじめに、2024年3月期実績についてご説明いたします。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減金額	増減率
売上高	2,025,332	2,004,221	-21,111	-1.0%
営業利益	128,517 (6.3%)	92,923 (4.6%)	-35,594	-27.7%
税引前利益	176,192 (8.7%)	136,143 (6.8%)	-40,049	-22.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	127,988 (6.3%)	101,074 (5.0%)	-26,914	-21.0%
EPS(円)	89.15	71.58		
平均為替 レート	米ドル ユーロ	135円 141円	145円 157円	

注：（ ）内の数字は売上高比率

自動車関連市場は受注状況が改善した一方で、
半導体関連や情報通信関連市場は在庫調整等の影響があり、減収減益

3 ページをご覧ください。

当期の売上高は、前期に比べ1%減少の2兆42億円となりました。営業利益は27.7%減少の929億円、税引前利益は22.7%減少の1,361億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は21%減少の1,011億円となりました。

自動車関連市場は受注状況が改善した一方で、半導体関連や情報通信関連市場は在庫調整などの影響があり、減収減益となりました。

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増減金額	増減率
設備投資額	173,901 (8.6%)	161,684 (8.1%)	-12,217	-7.0%
有形固定資産 減価償却費	108,757 (5.4%)	111,724 (5.6%)	2,967	2.7%
研究開発費	94,277 (4.7%)	104,290 (5.2%)	10,013	10.6%

注：（ ）内の数字は売上高比率

当社主要製品の需要回復の遅れにより、一部の設備投資を2025年3月期以降へ延期

4 ページをご覧ください。

設備投資額は 1,617 億円、減価償却費は 1,117 億円、研究開発費は 1,043 億円となりました。

当社主要製品の需要回復の遅れにより、一部の設備投資を 2025 年 3 月期以降へ延期したことなどにより、設備投資額が減少いたしました。

2024年3月期 事業セグメント別売上高



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	592,376	29.2%	569,145	28.4%	-23,231	-3.9%
産業・車載用部品	199,194	9.8%	224,574	11.2%	25,380	12.7%
半導体関連部品	364,579	18.0%	314,649	15.7%	-49,930	-13.7%
その他	28,603	1.4%	29,922	1.5%	1,319	4.6%
電子部品	378,536	18.7%	352,277	17.6%	-26,259	-6.9%
ソリューション	1,068,597	52.8%	1,101,144	54.9%	32,547	3.0%
機械工具	308,406	15.2%	310,740	15.5%	2,334	0.8%
ドキュメントソリューション	434,914	21.5%	452,162	22.5%	17,248	4.0%
コミュニケーション	207,793	10.3%	224,403	11.2%	16,610	8.0%
その他	117,484	5.8%	113,839	5.7%	-3,645	-3.1%
その他の事業	23,403	1.2%	18,236	0.9%	-5,167	-22.1%
調整及び消去	-37,580	-1.9%	-36,581	-1.8%	999	—
売上高	2,025,332	100.0%	2,004,221	100.0%	-21,111	-1.0%

5

© 2024 KYOCERA Corporation

5 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別売上高の一覧です。詳細については後ほどご説明いたします。

2024年3月期 事業セグメント別利益



(単位：百万円)

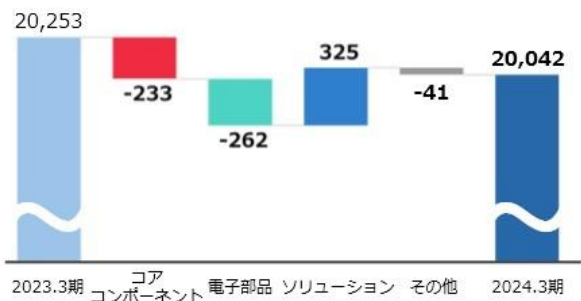
事業セグメント別 利益	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	89,475	15.1%	57,226	10.1%	-32,249	-36.0%
産業・車載用部品	24,743	12.4%	26,409	11.8%	1,666	6.7%
半導体関連部品	67,702	18.6%	30,375	9.7%	-37,327	-55.1%
その他	-2,970	—	442	1.5%	3,412	—
電子部品	44,064	11.6%	6,521	1.9%	-37,543	-85.2%
ソリューション	42,239	4.0%	71,570	6.5%	29,331	69.4%
機械工具	23,279	7.5%	16,837	5.4%	-6,442	-27.7%
ドキュメントソリューション	33,706	7.8%	43,940	9.7%	10,234	30.4%
コミュニケーション	-11,729	—	6,964	3.1%	18,693	—
その他	-3,017	—	3,829	3.4%	6,846	—
その他の事業	-28,795	—	-43,356	—	-14,561	—
事業利益 計	146,983	7.3%	91,961	4.6%	-55,022	-37.4%
本社部門損益等	29,209	—	44,182	—	14,973	51.3%
税引前利益	176,192	8.7%	136,143	6.8%	-40,049	-22.7%

6

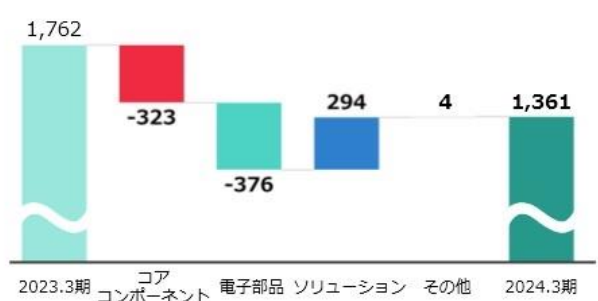
© 2024 KYOCERA Corporation

6 ページをご覧ください。こちらは、事業セグメント別利益の一覧です。

売上高 (億円)



税引前利益 (億円)



ソリューションは増収となったものの、コアコンポーネント及び電子部品においては主要製品の受注減少を主因に減収

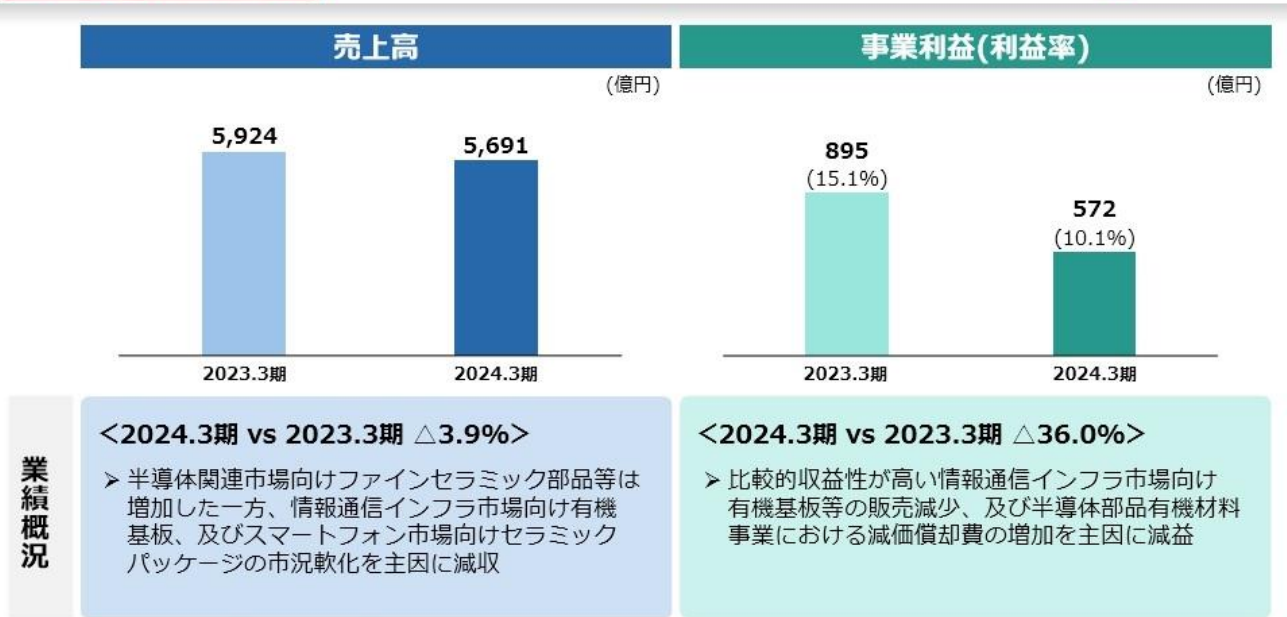
将来的な生産拡大に向けた積極的な投資を継続している一方、受注減少に伴う生産設備の稼働率低下や、人件費等の増加を主因に減益

7ページをご覧ください。こちらは、当期の実績のサマリーを示しております。

スライド左側の売上高をご覧ください。事業セグメント別では、ソリューションは増収となったものの、コアコンポーネントおよび電子部品においては主要製品の受注減少を主因に減収となりました。

続いて、右側の税引前利益をご覧ください。将来的な生産拡大に向けた積極的な投資を継続している一方、受注減少に伴う生産設備の稼働率低下や、人件費などの増加を主因に減益となりました。

各セグメントの売上高、利益の詳細を、次ページ以降でご説明いたします。

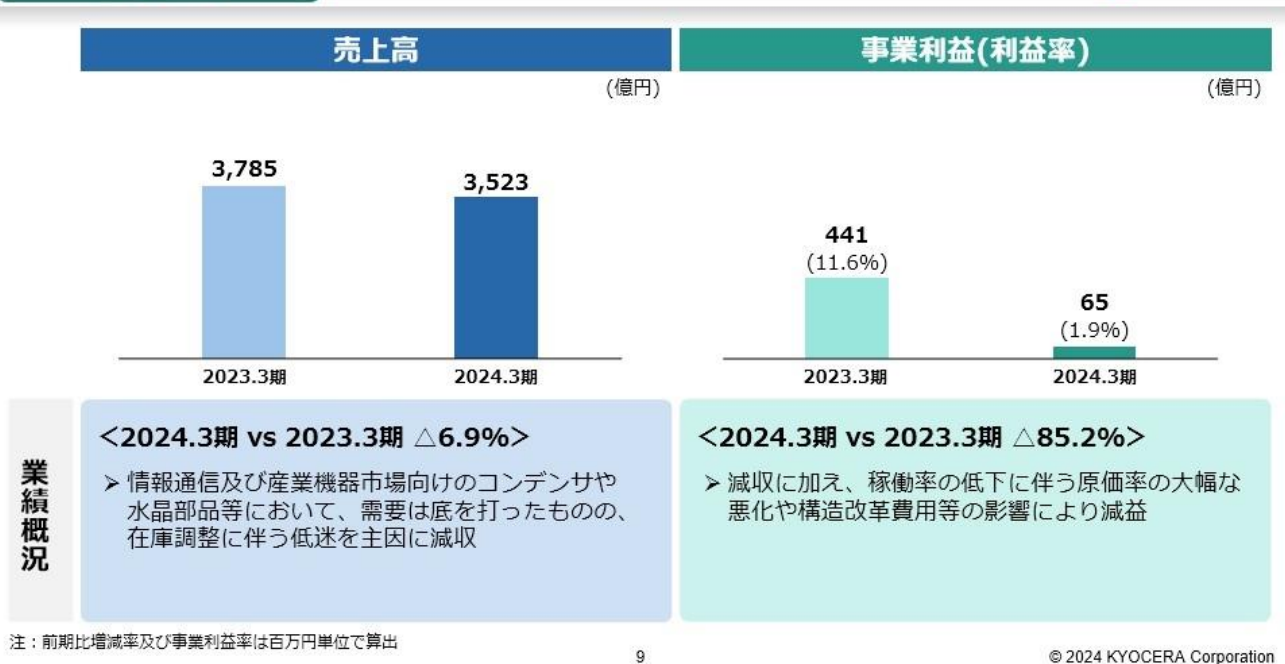


注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

8 ページをご覧ください。まずはコアコンポーネントです。

当期の売上高は 5,691 億円となりました。半導体関連市場向けファインセラミック部品などは増加した一方、情報通信インフラ市場向け有機基板、およびスマートフォン市場向けセラミックパッケージの市況が軟化したことを主因に減収となりました。

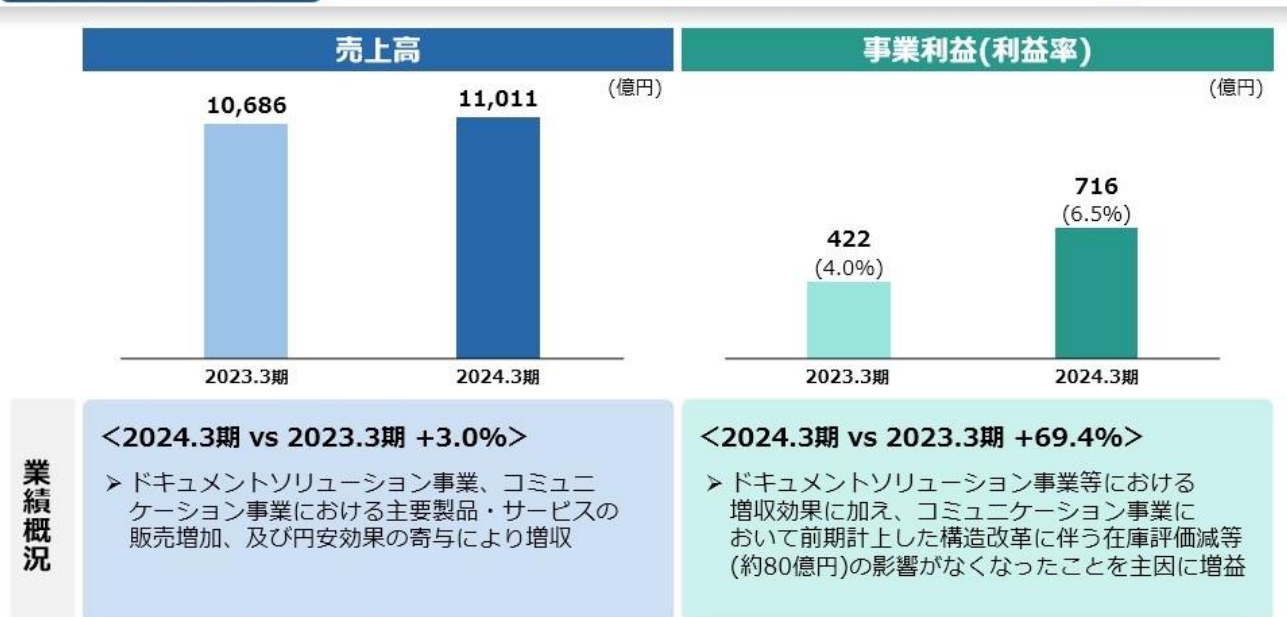
利益は 572 億円となりました。比較的収益性が高い情報通信インフラ市場向け有機基板などの販売減少、および半導体部品有機材料事業における減価償却費の増加を主因に減益となりました。



9 ページをご覧ください。続いて電子部品です。

当期の売上高は3,523億円となりました。情報通信および産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品などにおいて、需要は底を打ったものの、在庫調整に伴う低迷を主因に減収となりました。

利益については、65億円となりました。減収に加え、稼働率の低下に伴う原価率の大幅な悪化や構造改革費用などの影響により減益となりました。



注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

10 ページをご覧ください。最後にソリューションです。

当期の売上高は1兆1,011億円となりました。ドキュメントソリューション事業、コミュニケーション事業における主要製品・サービスの販売増加、および円安効果の寄与により増収となりました。

利益は716億円となりました。ドキュメントソリューション事業などにおける増収効果に加え、コミュニケーション事業において前期に計上した構造改革に伴う在庫評価減など、約80億円の影響がなくなったことを主因に増益となりました。

2025年3月期 業績予想 (1)



(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減金額	増減率
売上高	2,004,221	2,050,000	45,779	2.3%
営業利益	92,923 (4.6%)	110,000 (5.4%)	17,077	18.4%
税引前利益	136,143 (6.8%)	150,000 (7.3%)	13,857	10.2%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	101,074 (5.0%)	112,000 (5.5%)	10,926	10.8%
基本的EPS(円)	71.58	79.31		
平均為替 レート	米ドル 145円 ユーロ 157円	米ドル 145円 ユーロ 155円		

注1: () 内の数字は売上高比率
注2: 2025年3月期予想の基本的EPSは、
2024年3月期の期中平均株式数を用いて算出

半導体関連及び情報通信関連市場における下期以降の需要回復を見込み、増収増益

続いて、2025年3月期業績予想についてご説明いたします。

12 ページをご覧ください。

今期は、当社の主要市場である半導体関連や情報通信関連市場における在庫調整の継続が予想されますが、下期以降の需要回復を見込んでいることから、前期に比べ増収増益の売上高 2 兆 500 億円、営業利益 1,100 億円、税引前利益 1,500 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 1,120 億円の予想としております。

なお、業績予想の前提為替レートは、対米ドル 145 円、対ユーロ 155 円を予想しています。

(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減金額	増減率
設備投資額	161,684 (8.1%)	200,000 (9.8%)	38,316	23.7%
有形固定資産 減価償却費	111,724 (5.6%)	120,000 (5.9%)	8,276	7.4%
研究開発費	104,290 (5.2%)	120,000 (5.9%)	15,710	15.1%

注：（ ）内の数字は売上高比率

半導体関連部品の増産に向けて、積極的な設備投資を計画

13 ページをご覧ください。

設備投資額は 2,000 億円、減価償却費は 1,200 億円、研究開発費は 1,200 億円を見込んでおります。特に設備投資については、前期からの延期分を含め、半導体関連部品の増産に向けて積極的な投資を計画しております。

2025年3月期 事業セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

事業セグメント別 売上高	2024年3月期		2025年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	569,145	28.4%	580,000	28.3%	10,855	1.9%
産業・車載用部品	224,574	11.2%	232,000	11.3%	7,426	3.3%
半導体関連部品	314,649	15.7%	315,000	15.4%	351	0.1%
その他	29,922	1.5%	33,000	1.6%	3,078	10.3%
電子部品	352,277	17.6%	360,000	17.5%	7,723	2.2%
ソリューション	1,101,625	54.9%	1,131,000	55.2%	29,375	2.7%
機械工具	310,740	15.5%	313,700	15.3%	2,960	1.0%
ドキュメントソリューション	452,162	22.5%	470,000	22.9%	17,838	3.9%
コミュニケーション	224,403	11.2%	231,300	11.3%	6,897	3.1%
その他	114,320	5.7%	116,000	5.7%	1,680	1.5%
その他の事業	17,680	0.9%	16,000	0.8%	-1,680	-9.5%
調整及び消去	-36,506	-1.8%	-37,000	-1.8%	-494	—
売上高	2,004,221	100.0%	2,050,000	100.0%	45,779	2.3%

14

© 2024 KYOCERA Corporation

14 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別の売上高の一覧です。

2025年3月期 事業セグメント別利益予想



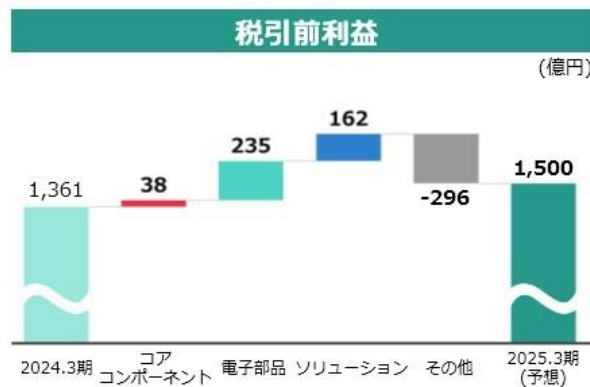
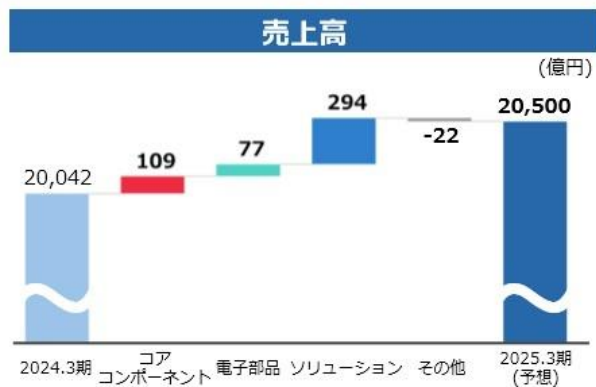
(単位：百万円)

事業セグメント別 利益	2024年3月期		2025年3月期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	57,226	10.1%	61,000	10.5%	3,774	6.6%
産業・車載用部品	26,409	11.8%	29,000	12.5%	2,591	9.8%
半導体関連部品	30,375	9.7%	31,000	9.8%	625	2.1%
その他	442	1.5%	1,000	3.0%	558	126.2%
電子部品	6,521	1.9%	30,000	8.3%	23,479	360.1%
ソリューション	69,841	6.3%	86,000	7.6%	16,159	23.1%
機械工具	16,837	5.4%	22,000	7.0%	5,163	30.7%
ドキュメントソリューション	43,940	9.7%	47,000	10.0%	3,060	7.0%
コミュニケーション	6,964	3.1%	10,000	4.3%	3,036	43.6%
その他	2,100	1.8%	7,000	6.0%	4,900	233.3%
その他の事業	-41,049	—	-47,000	—	-5,951	—
事業利益 計	92,539	4.6%	130,000	6.3%	37,461	40.5%
本社部門損益等	43,604	—	20,000	—	-23,604	-54.1%
税引前利益	136,143	6.8%	150,000	7.3%	13,857	10.2%

15

© 2024 KYOCERA Corporation

15 ページをご覧ください。こちらは事業セグメント別利益の一覧です。



- ✓ **コアコンポーネント** : 下期以降の半導体パッケージ等の受注回復の見込み
- ✓ **電子部品** : コンデンサ等の受注回復及びKAVX*の収益性改善を計画
- ✓ **ソリューション** : 新製品によるドキュメントソリューション等の更なる売上拡大
- ✓ **その他** : DX投資・人的資本投資の更なる拡充 (本社部門損益等の減少)

*KYOCERA AVX Components Corporation

16 ページをご覧ください。こちらは業績予想のサマリーです。

左のグラフは売上高、右のグラフは税引前利益の前期からの増減を示しており、全てのセグメントで増収増益を計画しております。

まず、コアコンポーネントは、下期以降に半導体パッケージなどの需要回復を見込んでおります。次に、電子部品はコンデンサなどの受注回復に加え、KAVX の収益性改善を計画しております。ソリューションにおいては、新製品投入によるドキュメントソリューション事業などのさらなる売上拡大を図る計画です。また、DX 投資や人的資本投資のさらなる拡充を図る計画としており、前期と比較して、その他の本社部門損益等が減少する見込みです。

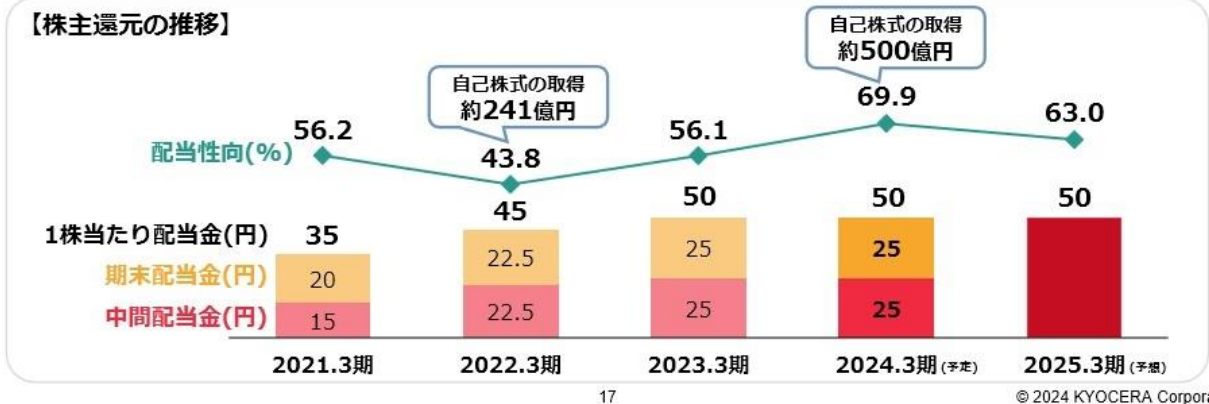
①2024年3月期

- ・ 約500億円の自己株式取得を実施済
- ・ 年間配当金は1株当たり50円を予定 (2024年1月1日の株式分割後基準)

②2025年3月期

- ・ 年間配当金は2024年3月期と同額の1株当たり50円を予想

【株主還元の推移】



17 ページをご覧ください。続いて、株主還元についてご説明いたします。

2024年3月期は、当初の計画どおり、約500億円の自己株式の取得を実施いたしました。年間配当金は1株当たり50円を予定しております。

また、2025年3月期の配当金につきましても、2024年3月期と同様の1株当たり50円の予定です。引き続き、業績拡大に努め、株主還元の向上を図ってまいります。

* 2024年6月定時株主総会に選任議案を付議予定



18 ページをご覧ください。最後に、コーポレート・ガバナンスに係る取り組みについてご説明いたします。

上段は社外取締役・社外監査役の選任です。このたび、取締役会の監督機能強化、ならびに構成のさらなる多様化を図るため、独立社外取締役候補者として、クアルコムジャパン合同会社アドバイザリーチェアマンの須永 順子氏を選任し、1名増員いたします。

また、監査役3名の任期満了に伴い、新たに木田 稔氏と小原 路絵氏を独立社外監査役候補者として選任いたします。これらにより、社外取締役比率は40%、女性取締役比率は20%、女性監査役比率は25%となります。

下段は政策保有株式の縮減です。昨年掲げました2026年3月期までに簿価の5%以上を縮減するという定量的な目標に対し、2024年3月期には簿価の約1%を縮減いたしました。今後もこの5%以上の目標達成に向けて、さらなる縮減を推進してまいります。

引き続き、コーポレート・ガバナンスを強化し、さらなる企業価値向上に努めてまいります。

以上が私からの説明となります。今後とも当社に対しましてご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

<質問者 1>

[Q]：最初に、主要なデバイスでの回復タイミングについてですが、用途によっても部品によっても早い遅いがあると思います。それを4-6月、7-9月、10-12月に向けてどのように見ておられるかというところを教えてください。

その中で、特に今回、半導体関連の増産投資について、売上を見ると今年はほとんど横ばいという中で、何か将来の売上が見えていないとこういう投資額を使わないと思います。多分、2025年度に向けてだと考えますが、この設備投資のお金の使い方に対して、どれぐらいの売上か、どういう製品かなど、その辺の想定についてもう少し情報をいただければありがたいと思います。

先日、メディアでも、半導体関連で6,000億円の中期的な設備投資を行うという話がありましたが、結構な額だなと思いました。本当にそんなに使えるのか、そんな能力が必要な需要があるのかと感じるところもありましたので、背景を含めて教えていただければと思います。お願いします。

[A]：半導体関連では、まず半導体製造装置用のセラミック部品につきまして、前期は露光装置と後工程のバックグラインドおよびスライサーは非常に好調な市況が継続しましたが、成膜、エッチャー辺りはかなり落ち込みました。

いろいろな背景があってそうなっているとは思うのですが、本格的に成膜・エッチャーが回復してくるのは、今期の第4四半期ぐらいと見ております。ですから、半導体製造装置が2年前のようにかなり活況を呈するようになるのは、第4四半期以降になるだろうという見方をしております。

それと、大きく落ち込んだ有機基板ですが、従来われわれが作っておりました通常のデータセンターのCPU向けパッケージ、あるいはスイッチ等向けのパッケージにつきましては、通常のデータセンターへの投資が少し抑え気味になり、AIサーバ向けにどんどん変わっているため、まだ客先の在庫が消化しきれていないと聞いております。こちら下期から第4四半期にかけての回復になるのではないかと考えております。従来の製品だけではなく、AI絡みの製品が増えてきますが、こちらは認定も必要ですので、少し時間がかかるという見方をしております。

設備投資金額については、半導体のAI関係の投資は、われわれのユーザー様も大きな金額の投資を計画されております。それに見合った生産体制を整備するという意味で、かなり大きな金額を製造装置用部品とパッケージの両方で計画しています。

[Q]：これはAIの投資とかなり直結するようなところを意識しておっしゃっているということですか。

[A]：AIアクセラレータといわれる、従来のCPUとはちょっと違う、どちらかというとなGPUに近い製品に向けて、かなりの投資を計画しています。

[Q]：わかりました。用途別、デバイス別に回復のタイミングの違いというのは、今年の4～6月、7～9月、10～12月に向けてどのような感じで見られていますでしょうか。

[A]：半導体の中で、DRAMは前期の第4四半期ぐらいからかなり需要が上がってきています。NANDは回復が遅れていると言われていましたが、NANDも段々回復の兆しが出ています。最終製品の半導体のデバイスは、もっと早く需要が上がり始めるのだらうと思いますが、パッケージング用の部品が使われるタイミングは、第4四半期ぐらいになると見ております。

[Q]：電子部品、例えばコンデンサや水晶部品のほうが回復タイミングはもうちょっと早いというイメージでしょうか。

[A]：電子部品のほうも、SamsungさんがAI搭載の携帯電話を発表され、数年ぶりに携帯電話で割と強気の見通しを出されております。ですので、電子部品のほうが少し早く、下期ぐらいから回復に向かうだろうと思っております。

[Q]：電子部品の下期に対し、半導体関連は第4四半期と、ちょっと遅れるイメージですか。

[A]：大体そんな感じです。

[Q]：大きな二つ目の質問ですが、キャピタルアロケーションや株主還元を含めての議論内容についての発表は、中間決算や秋と理解しております。その件について、今、社内でどういう議論が活発に行われ、どういうことが一番の検討事項になっているのか、気をつけるべきところやより積極的に考えるべきところなど、何かシェアできるものがあれば教えてください。

[A]：あらゆる可能性について検討しており、メリットやデメリットを今、社内で共有しています。ご相手もある話であり、ご相手の方とも話を粛々と進めている段階のため、どの方向で決めたということではまだございません。あらゆる可能性を検討しているところです。

[Q]：基本的に従来から伺っている方向性、メインシナリオは変わっていないということよろしいですか。

[A]：はい。それで結構です。

[Q]：はい、わかりました。ありがとうございます。

以上

注記

当資料は、SCRIPTS Asia 株式会社によって録音・書き起こしされたものを当社にて一部編集したものです。

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2024年3月期通期決算説明会開催日（2024年4月26日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）。